

## 第 599 回：何に悩んでいる？レポートでのもやもやを解体（MI）

みなさんこんにちは。今日は、レポートを書くときに悩んだり考えたりして、上手くまとまらず、パソコンの画面とにらめっこしている時の解決案についてお話します。レポートがすらすらと書けるようになる魔法の案ではなく、まず踏み出したい第一歩への試みです。

初めに、「悩むこと」について少し考えてみます。悩むということは、その悩んでいる物事について長く、あるいは深く考えていると言えます。ですので、悩むこと自体は何も悪いことではありません。しかし、単に長時間ぐるぐると考え続けることは得策ではありません。最終的に自分が何に悩んでいたのが曖昧になってしまい、解決策も見つからず、「長時間悩んだ」という疲労感だけが残る可能性があるからです。このようなことを防ぐには、自分が「何に悩んでいるのか」を明確にすることが重要です。

そもそも、ある程度まとまった文章を書くことは簡単ではありません。慣れるには訓練が必須です。なぜなら文章を書くことは、アウトプットとインプットが融合した行為だからです。レポートを書くには、読んだことを自分の中に取り入れて整理し、再び言語化して外に出す必要があります。さらに、外に出す文章には頭からつま先まで通った筋が不可欠です。書くこととは悩むことである、と言えるかもしれません。

ではここで、レポートを書くときに生まれる悩みを具体的に考えてみましょう。一口に悩みといっても、解決が難しいものから何とかかなりそうなものまで様々です。既に話したように、とりあえず、自分が「何に悩んでい

るのか」を取り出すことが大事です。下に例としていくつか書いてみます（ここでは便宜上番号をふります）。紙に箇条書きで書いてみるのがおすすめです。

1. 内容？→何を書けばいいかわからない・決まらない
2. 構成？→何から書き始める？どっちを先に書こう？
3. 表現？→読んでいてしっくりこない、わかりにくい
4. 引用の仕方等？→間接引用の仕方ってどうだっけ、参考文献の書き方は？
5. 考察が難しい、まとまらない
6. レポートとは別のこと？→今日の夜何食べる？バイトに行かないといけない

これでやや具体的になりました。いくつかの段階に分けて書いてみましたが、できるだけ細かく書けるといいと思います。こうして頭の中をぐるぐると回っていた悩みが可視化されると、少しは気分がスッキリするはずです。

後は解決に向けてアプローチをするだけです。順番に見ていきましょう。まず1番の場合、レポートの課題を確認した上で、レジュメを見返します。そして、教科書や指定図書、授業等で個別に挙げられた参考文献等も読んでみます。課題が分かっただけで読んでみれば、良い取っ掛かりが見つかるかもしれません。2～5番の場合は、レポートや論文執筆に関する本を読んでみたり、先行研究等で構成や表現を確認してみたりするのがおすすめです。もちろん1番の場合でも、テー

### 第 599 回：何に悩んでいる？レポートでのもやもやを解体（MI）

マ決めのアイデアが得られるかもしれませんが。また、2・3・5 番の場合、最初から完璧を目指さず、箇条書きやメモ程度でもとりあえず書いておくのも良いでしょう。後から何だって書き加えられますし、順番だって自由自在に変えられます。なお、5 番では熟考が必要です。ここでは悩みましょう。自分が書いてきた文章や先行研究を読み返します。最後に 6 番の場合ですが、これは残念ながら、レポートを書いているときに悩んでも解決できません。一旦紙に書きだして、未来の自分に解決を委ねましょう。

このように、頭の中のもやもやとした悩みを箇条書きにして解体すれば、解決への一歩となり、またそれはレポートへの一歩にもなるはずです。解決できることは解決し、熟考すべきものはとことん熟考し、恐れずにレポートを書いてみましょう。